

科目名	キリスト教学 I		科目ナンバリング	L-GECHO-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G51000		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基本的知識を得ることを第一の目的とする。キリスト教とりわけ聖書の物語から自分自身のあり方や現代社会について考察し、自らの視野を広げることを目指したい。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. キリスト教、宗教全般についての基本的知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的なアプローチという視座を得る。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから自分自身やこの社会について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	基礎的知識		キリスト教、聖書、宗教について（カルト含む）							
第2回	弘前学院とは		キリスト教主義学校、弘前学院の歴史、明治期の宣教師たち							
第3回	キリスト教史		キリスト教の歴史概説、ユダヤ教・イスラームとの関係							
第4回	文学とキリスト教		文学部で学ぶことの意義、聖書と文学							
第5回	旧約聖書概論		旧約聖書の成立、39巻をダイジェストで説明（いくつかのテキストにふれながら）							
第6回	旧約聖書を読む（1）		創世記の天地創造物語が伝えようとするもの						ディスカッション	
第7回	旧約聖書を読む（2）		創世記の楽園喪失物語とわたしたち人間の姿						ディスカッション	
第8回	旧約聖書を読む（3）		イスラエルの歴史、サムエル記と列王記を中心に							
第9回	旧約聖書を読む（4）		預言書と知恵文学、諸書							
第10回	新約聖書概論		新約聖書の成立、27巻をダイジェストで説明（いくつかのテキストにふれながら）							
第11回	福音書を読む（1）		イエス誕生物語、クリスマスの意味						ディスカッション	
第12回	福音書を読む（2）		イエスの語るたとえ話、奇跡物語をどう読むのか						ディスカッション	
第13回	福音書を読む（3）		イエスの死と復活、なぜ十字架はシンボルとなるのか						ディスカッション	
第14回	新約聖書のその他の文書		パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立							
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義の反省とふりかえり							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験50%、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席とその感想文20%で評価する。</p> <p>期末試験は講義中でふれたポイントが理解できているかどうかを問う問題を出題予定。</p>									
課題 等	講義時に指示する。									
事前事 後学修	<p>講義時に指示した次回の聖書テキストを事前に読んでおく。</p> <p>万が一欠席した場合は友人のノートを書しプリントをコピーし理解に努めること。</p>									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』 ※自分の持っている聖書が新共同訳かどうか確認しておくこと（入学時購入者は新共同訳である）。プリントは必要に応じて講義時に配布する。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意しておくこと。									
留意 点	木曜日10：20からの礼拝に参加すること。 本講義及び礼拝は信仰を強制するようなものではない。疑問や質問、不安に応えつつ講義を行う、									

科目名	キリスト教学Ⅱ		科目ナンバリング	L-GECHO-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	G51001		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教とは他者を裁き自由を奪うものではない。他者を尊重し、愛し、共に育つことを導くものであると考える。聖書というテキストを用い、現代に生きるわたしたちがどのように他者と共存し高め合い生きていくのかを考える。旧約聖書の創世記と新約聖書の福音書を主にテキストとして用いる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教という視点、価値観から自分と他者のあり方を考える。</p> <p>2. 聖書の中の物語を通し、神と人間との関係の中の失敗や成功を読み取り、そこから学ぶべきもの考える。</p> <p>3. キリスト教的倫理という観点を得る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	方法論		基礎的知識の確認、どのようなことを目指すのか							
第2回	創世記から考える（1）		イスラエルの苦難の歴史（天地創造 創世記1：1～2：4）					デスクッション		
第3回	創世記から考える（2）		アダムとエバの失敗と可能性（楽園喪失 創世記2：4～3：24）					デスクッション		
第4回	創世記から考える（3）		人類最初の殺人事件（カインとアベル 創世記4：1～26）					デスクッション		
第5回	創世記から考える（4）		言葉が通じないとどうなる？（バベルの塔 創世記11：1～9）					デスクッション		
第6回	創世記から考える（5）		アブラハムは旅立つ（アブラハム物語 創世記12：1～25：26）					デスクッション		
第7回	福音書から考える（1）		誕生物語が伝える悲しいメッセージ（イエス誕生物語 マタイ1：18～2：23 ルカ2：1～20）					デスクッション		
第8回	福音書から考える（2）		自立と自律（放蕩息子のたとえ ルカ15：11～32 99匹と1匹の羊 ルカ15：1～7）					デスクッション		
第9回	福音書から考える（3）		イエスの考えた社会福祉（ぶどう園の労働者のたとえ マタイ20：1～16）					デスクッション		
第10回	福音書から考える（4）		タラントンは用いてこそ（タラントンのたとえ マタイ25：14～30）					デスクッション		
第11回	福音書から考える（5）		差別をこえた働きかけ（徴税人ザアカイ ルカ19：1～10）					デスクッション		
第12回	福音書から考える（6）		愛は無条件に（敵を愛する ルカ6：27～36 善いサマリア人 ルカ10：25～37）					デスクッション		
第13回	福音書から考える（7）		病といやし（ペトザタの池 ヨハネ5：1～18 中風の人のいやし マルコ2：1～12）					デスクッション		
第14回	福音書から考える（8）		「因果応報ではない」考え方（盲人をいやす ヨハネ9：1～12）					デスクッション		
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義の反省とふりかえり							
評価方法及び評価基準	<p>原則として、レポート60%（2回を予定）、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席10%で評価する。</p> <p>レポートは創世記から1回、福音書から1回。A4サイズ1枚。記述の適切さ、分量、考えや意見が論理的に述べられているか判断する。</p>									
課題等	講義時に指示。									
事前事後学修	講義前に聖書テキストを読んでおくことは必須。									
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』 プリントは必要に応じて配布する。ノートは必ず持参。									
留意点	「自分はどう考えるか」という視点を大事にすること。 必要に応じて木曜10：20からの礼拝に参加すること。特に、講義欠席の多い者、レポートに自信のない者はそれにより救済される場合がある。									

科目名	キリスト教文化		科目ナンバリング		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード							
区分	一般教育科目	選択	担当者名	坂井任、石垣雅子、井上諭一、井上裕太、今村かほる、鎌田学、川浪亜弥子、顧偉良、佐藤和博、志喜屋カローリーナ、畠山篤、エドワード・フォーサイス、スティープン・マックウィニー				1年	開講 学期	後期
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教は宗教として信仰されてきただけでなく、文化的にも大きな影響を与えている。その範囲は広範で、思想・倫理・文学・芸術・建築・制度・法律・習慣・言葉・歴史など枚挙に暇がない。キリスト教が生み出した文化は、信者であるか否かに関わらず、人類の大きな遺産であるといえる。この授業では、様々な専門分野の視点から、文化をキリスト教という側面から考えてみる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	キリスト教が日本および世界の文化に多種多様な影響を与えていることを理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	神の存在証明をしてみよう		西洋では、神学者たちが神が存在することを証明しようと長年苦心してきました。その努力の一端を覗いてみて、もし自分だったらどのように証明するか考えてみましょう。					9/26：鎌田学 資料はコピーにて配布		
第2回	キリシタン資料と日本語		室町、安土・桃山時代、日本宣教のためにイエズス会宣教師がキリスト教を伝え、教義書のほか、文学・語学資料が「キリシタン資料」として残されましたが、これによってキリスト教文化の受容と摂取の状況を把握します。					10/3：今村かほる		
第3回	聖書・キリスト教とことわざ		現代を生きる私たちにとって、当たり前のように使用していることわざや慣用語について、聖書やキリスト教に原点を持つものについて学ぶ。小テスト実施。					10/10：石垣雅子		
第4回	弘前学院外人宣教師館見学		弘前学院外人宣教師館を見学し、重要文化財としての歴史的価値について学ぶ。					10/17：井上裕太		
第5回	イギリスにおける宗教改革		シェイクスピアが活躍した時代におけるイギリスでのキリスト教信仰 キリスト教信仰とシェイクスピア作品の関係					10/24：川浪亜弥子		
第6回	ハロウィーンの歴史		キリスト教会の歴史から現在のハロウィーンがどうやって進化を遂げたかについて話す。グループワークでディスカッションします。IGTを使って内容を評価しますので、履修者がスマートフォンをお持ちください。					10/31：エドワード・フォーサイス		
第7回	クリスチャン文化と聖書言語		趣味として言語を学ぶ人、就職のために言語を学ぶ人が多い中で、ヘブライ語やギリシャ語を学ぶクリスチャンを招き、彼らがなぜ言語を学ぶのかについて理解することを目的とし、聖書の起源を学ぶ。※ライトニングトークや対談を交えた形式で行う。					11/7：志喜屋カローリーナ		
第8回	キリストと安寿姫		津軽のイタコ(女性シャーマン)の語る「お岩木山一代記」は、太陽神とその神の妻が神の娘を産み、その神の子が岩木山の神になり、悩める人々を救う話である。何とキリストの誕生と行為に似ていることが。					11/14：畠山篤		
第9回								11/21：畠山篤		
第10回	キリスト教と現代小説(附、サブカルチャー)		20世紀後半から21世紀にかけて活動した小説家のうち、キリスト教の影響の強いと思われる人の仕事を読んでみます。具体的には飯田宮夫と庄野潤三の二人を中心としますが、他の作家にも触れます。なお、十分な時間は取れませんが、マンガなどのサブカルチャー領域におけるキリスト教の影響についても、概説します。					11/28：井上諭一 資料はコピーにて配布します。		
第11回	日本キリスト教小史		日本に伝えられたキリスト教はどのように広まり、どんな道のりをたどったのでしょうか。イエズス会の宣教から明治期の宣教師たち、そして現代まで、その歴史を学んでみましょう。					12/5：石垣雅子		
第12回	英訳聖書の世界		英訳聖書の歴史について学ぶ					12/12：佐藤和博		
第13回	クリスマスの由来		ヨーロッパの異教の祭典が、現在のキリスト教の祭典にどのように変化していったか、について話す					12/19：スティープン・マックウィニー		
第14回	『人間失格』などをめぐって太宰治の情死にいたる病を考える		太宰自ら述べた「撰ばれてあることの/恍惚と不安と/二つわれにあり」という自意識過剰、および太宰の情死にいたる病について考える。					1/16：顧偉良		
第15回	弘前学院の歴史		皆さんの母校となる弘前学院は、キリスト教主義を建学理念に掲げ、130年を超える歴史を刻んできました。その歩みを追います。					1/23：坂井任		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。各担当者より小課題その他の方法によって、担当回分の評価を行う。									
課題等	授業内で課題やレポートが指示された場合は、期限内に提出すること。提出された課題・レポート等は適宜返却する。									
事前事後学修	学生便覧の「弘前学院の沿革と使命」の項を読んでおくこと。各教員の指示に従って復習し、各自講義の内容を問い直しておくこと。2回続きの授業の場合は教員の指示に従い次回の予習をやる。									
教材教科書参考書	各担当者により、必要に応じてプリント等資料配布									
留意点	担当者・担当順は変更になることがある。									

科目名	哲学と倫理 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			「ここは今から倫理です。」						
第2回	「嘘も方便」は正しいか？			カントの倫理学説（義務論）について				課題解決型学修		
第3回	サバイバル・ロッターリー			生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？				課題解決型学修		
第4回	「最大多数の最大幸福」			個人と社会のあり方を考える				課題解決型学修		
第5回	功利主義の基礎			功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる				課題解決型学修		
第6回	幸福の計算			幸福とは何か、幸福へ至る道とは？				課題解決型学修		
第7回	人格概念			人格概念を検討する				課題解決型学修		
第8回	事実判断と価値判断			「である」と「べきである」の関係性について				課題解決型学修		
第9回	カントの定言命法			カントの倫理学説再説				課題解決型学修		
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？			道徳の原則とは何か？				課題解決型学修		
第11回	囚人のジレンマ			囚人にとって一番利益になる行為とは？				課題解決型学修		
第12回	施しは義務か？			貧者を援助しなければならないことの根拠				課題解決型学修		
第13回	正義は時代によって変わるか？			「格差」問題を考える				課題解決型学修		
第14回	科学は価値中立的か？			科学技術の光と闇				課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	哲学と倫理B		科目ナンバリング	L-GEHU0-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52001		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>アメリカ生まれのイギリスの詩人T・S・エリオット(1888-1965)の文化論『文化の定義のための覚書』を読む。哲学書ではなく社会批評ゆえ比較的論旨もつかみやすく、欧米文化、現代文化に興味のある人に考えるヒントを与えてくれる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	文章を正確に読み込んで、解釈できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	1章	「文化」の三つの意味	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第3回		「文化」の三つの意味②	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第4回	2章	階級とエリート集団	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第5回		階級とエリート集団②	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第6回	3章	統一性と多様性-地域	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第7回		統一性と多様性-地域②	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第8回		統一性と多様性-地域③	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第9回	4章	統一性と多様性-教派と祭式	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第10回		統一性と多様性-教派と祭式②	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第11回		統一性と多様性-教派と祭式③	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第12回	5章	文化と政治についての覚書	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第13回		文化と政治についての覚書②	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第14回	6章	教育と文化についての覚書-結語	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第15回	②	教育と文化についての覚書-結語	講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
評価方法及び評価基準	各種課題（50％）と期末試験（50％）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	コピーで配布します。									
留意点	履修者は分量のある文章を毎週読み込んで、予習してくること。									

科目名	法と社会A (日本国憲法を含む)		科目ナンバリング	L-GEHU0-02. SKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52002		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業 の 概 要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。まず、人権に関する歴史や基礎理論を学び、そのうえで、包括的基本権及び自由権、社会権等の人権について概観する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	日本国憲法の人権諸条項について、それらの規定内容の理解を始め、それらを巡る現代的諸問題等をより深く理解する事を旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	人権総論①			基本的人権の概念				グループワーク討 論		
第2回	人権総論②			基本的人権思想の歴史的展開①				グループワーク討 論		
第3回	人権総論③			基本的人権思想の歴史的展開②				グループワーク討 論		
第4回	人権総論④			基本的人権の享有主体				グループワーク討 論		
第5回	人権総論⑤			基本的人権の私人間効力				グループワーク討 論		
第6回	人権総論⑥			特別の法律関係における基本的人権				グループワーク討 論		
第7回	人権総論⑦			基本的人権の限界と制約				全体発表		
第8回	包括的基本権①			個人の尊重と幸福追求権				グループワーク討 論		
第9回	包括的基本権②			幸福追求権の諸相				グループワーク討 論		
第10回	包括的基本権③			法の下での平等				グループワーク討 論		
第11回	包括的基本権④			家族生活と平等				グループワーク討 論		
第12回	包括的基本権⑤			雇用関係と平等				グループワーク討 論		
第13回	自由権①			思想及び両親の自由				グループワーク討 論		
第14回	自由権②			信教の自由と政教分離				グループワーク討 論		
第15回	総括			まとめと振り返り				全体発表		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（前期試験）のみ。 試験の形式及び内容は資料持ち込みでの論文式。									
課題 等	特になし									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意 点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。 毎回、グループ討論や全体発表の時間を設けるので、積極的・能動的に取り組むこと。									

科目名	法と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-03. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52003		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概 要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>法と社会Aに引き続いて、日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。法と社会Aで学んだ基礎理論を前提にしつつ、各人権条項の内容を学ぶのに加えて、必要に応じて、裁判例などについても理解を深める。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	各人権条項の規程内容の理解に加えて、現代的諸問題への対応についても、より広くより深い理解を形成する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	自由権③			学問の自由と大学の自由				グループワーク討 論		
第2回	自由権④			表現の自由①				グループワーク討 論		
第3回	自由権⑤			表現の自由②				グループワーク討 論		
第4回	自由権⑥			表現の自由③				グループワーク討 論		
第5回	自由権⑦			経済的自由権の歴史的展開				全体発表		
第6回	自由権⑧			財産権の保障				グループワーク討 論		
第7回	自由権⑨			職業選択の自由と営業の自由				グループワーク討 論		
第8回	自由権⑩			居住・移転・国籍離脱の自由				グループワーク討 論		
第9回	社会権①			自由権と社会権				グループワーク討 論		
第10回	社会権②			生存権①				グループワーク討 論		
第11回	社会権③			生存権②				グループワーク討 論		
第12回	社会権④			教育を受ける権利				グループワーク討 論		
第13回	社会権⑤			労働基本権①				グループワーク討 論		
第14回	社会権⑥			労働基本権②				グループワーク討 論		
第15回	総括			まとめと振り返り				全体発表		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（後期試験）のみ。 試験の形式及び内容は資料持ち込みでの論文式。									
課題 等	特になし									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意 点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。 毎回、グループ討論や全体発表の時間を設けるので、積極的・能動的に取り組むこと。									

科目名	政治学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概 要 等	<p>【授業の主旨】 今日、社会全体がどちらかといえば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこで、この講義のねらいは、政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講者に理解・意識してもらうことにあります。それゆえ、講義では制度を多く扱うよりも、それらに密接に関わる理論や傾向、あるいは考え方に力点を置きます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>受講者には以下の3点の「答え」を相応に理解してもらえればと思う。 ・なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのか。 ・なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのか。 ・江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのか。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違い等の説明も行う。						
第2回	政治とは何か			学生に今までの理解で「政治」について知っていること、思っていること、感じていること等を用紙に書いてもらう。これを回収して西東がコメントしていく。						
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力と権威について解説する。						
第4回	弘前市会議院2～4名を呼び、学生の市政への関心を高めていただく。			第5回の授業の初めにワークショップを30分開催し、その記録を取る。						
第5回	マス・メディアと政治			民主主義体制における政治家とマス・メディアには基本的に価値観の対立がある。						
第6回	民主主義			民主主義体制のメリットとデメリット。民主主義体制以外の独裁体制のデメリット。						
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化と			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校の集団重視教育のように、制度に取り入れられている集団主義文化も存在する。私たちのこうした慣習は集団や組織にとってメリット・デメリットの双方が現れる。KYも良かれ悪しかれ集団主義文化である。具体例をあげながら、日米の文化について分析していく。						
第8回	18歳選挙権と参政権			18歳選挙権はすべての政党が賛成して決定された。そもそも日本国憲法第16条には請願権があり、議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わらず意見を述べるができる。この権利と選挙権・被選挙権の違いについて考察する。						
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における権力・条約・国際連合の関係						
第10回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（1）			NHKのドキュメンタリー番組の鑑賞						
第11回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（2）			パレスチナ・イスラエル問題の歴史を見ていく。ユダヤ社会とアラブ社会の歴史を概説する。最後の30分、グループワークを行い、記録を取る。						
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎を考察していく。M. ウェーバーの推定した組織された社会の進行は今も続いている。こうした社会のメリット・デメリットを考えたい。						
第13回	官僚制理論（2）			行政官僚制による「天下り」問題と集団主義文化						
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国社会は垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化に変わりつつある。だが、この水平的集団主義文化のデメリットはリーダーを生み出しにくい文化とも言われる。個人・集団・組織の自律・自立の視点を加えてこの問題を考察する。						
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーは、制度の理論に文化を絡ませて研究業績を残した。そうした彼の研究の一部をヒントにした分析を解説する。						
評価 方法 及び 評価 基準	2回分のグループワークの記録（20%）と試験（80%）。文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題 等	・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かについて、ああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。									
事前事後 学修	・講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事を一読してください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事を一読してください。									
教材 教科書 参考書	・教科書：橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一芸社、2400円＋税。									
留意 点	講義中や講義後での質問・感想に遠慮は必要ありません。									

科目名	政治学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-05.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52015		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概 要 等	<p>【授業の主旨】 政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。怠けては保持されないことがあるかもしれない。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には長い長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されている者である。私たちが努力していく方向を探るために、前期で学んだ基礎的知識を下に、さらに具体的に考察できる知識を学んでいきたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かを考えていく。 ・受講者には、この「答え」をああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	本講義・展開方法・試験等について			さらに、出欠、感想文とレポートの違いについての確認。						
第2回	黒人差別の歴史的展開			米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの概説する。						
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）			1950年代から1960年代までの公民権運動を撮影したものを再編集した動画の鑑賞。						
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）			翌週、この動画を見た感想をグループワークを行い、記録を取る。						
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質			M. ウェーバーの述べた政治家の資質は、政治の独特の問題への対応を除けば、あらゆる組織のリーダーにとって不可欠なものである。受講者にとって多少難解な点もあろうが、リーダーはリーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長していく。良き方向に進むのか、悪い方向に進むのか。このことをリーダーと周囲の人間は、常に配慮する必要がある。						
第6回	議院内閣制・大統領制とリーダーシップ			議院内閣制と大統領制の分析とリーダーシップの関係について考察する。						
第7回	圧力団体・公益法人・NPO			圧力団体・公益法人・NPOを概説し、メリット・デメリットを分析する。						
第8回	文民統制・自衛権・集団安全保障			民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念を理解する。						
第9回	日本の政策過程			日本の政策過程について、1955以来形成されてきたパターンを分析・解説する。						
第10回	NGOとNPOのミッション			(NGOを含む) NPOの企業や行政とは異なる特徴は何か、また、そのミッションとは何か。これらを中心に考察する。						
第11回	NGOとNPOの機能と構造パターン			(NGOを含む) NPOの機能と構造パターンから、そのメリット・デメリットを考察していく。						
第12回	ドイツの前首相メルケル			ドイツの前首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績を紹介・分析。						
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃			2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況について、理解に努める。						
第14回	欧州における性労働者の権利			欧州における性労働者の主張を学問的に分析。前回か今回のいずれかのテーマで、グループワークを行い、記録を取る。						
第15回	まとめと試験			全体的なまとめと試験						
評価 方法 及び 評価 基準	2回分(第2回と第14回)のグループワークの評価(20%)と試験1回(80%)。文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題 等	受講者である学生自身が、様々な講義の中でこれが私の政治課題であると言えるテーマを見つけてほしい。政治の課題は世の中のあらゆる問題のほとんどに関わっているから。									
事前 事後 学修	・講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	・教科書：橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一藝社、2400円＋税。									
留意 点	第1回目に出席できない学生は事前に連絡をしてください。									

科目名	経済学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-06. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52016		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者(アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ)の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	失業の原因			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版)日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。									
留意 点										

科目名	経済学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-07. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52017		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	金融市場の役割			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	利子率の決定			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長の戦略			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返ししながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	（参考書）塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN: 9784309248417									
留意 点										

科目名	心と身体A		科目ナンバリング	L-GEHU0-08. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	古村 健太郎			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 心理学は、人々の心が社会生活の様々な場面でどのように動きうるのかを実証的研究によって明らかにしてきました。本授業では、日常生活における様々な場面、特に対人関係を取り上げ、我々の心がどのように動くのかについて学んでいきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること 心理学の知識や技能に基づいて、人の心や行動について考えることができるようになること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			本授業で前提とする知識や考え方について説明する						
第2回	人の自動性			人の自動性について考える						
第3回	ステレオタイプと偏見			ステレオタイプについての基礎知識やその社会的影響について考える						
第4回	ステレオタイプや偏見と向き合う			ステレオタイプや偏見を抑制することができるかを考える						
第5回	ステレオタイプや偏見に対する実践			ステレオタイプや偏見と向き合うための事例について考える						
第6回	私を取り巻く人々との関係性			対人ネットワークの構造や重要他者の存在について考える						
第7回	アタッチメント対象としての重要な他者			アタッチメント理論の観点から重要他者について考える						
第8回	恋愛関係をめぐる話題			恋愛関係に関する心理学研究から身近な人間関係について考える						
第9回	中間のまとめ			ここまでの議論をまとめ、問題点を整理する						
第10回	青年を取り巻く性的話			性行動について考える						
第11回	悲嘆：大切な人を失う			喪失によって生じる悲嘆の過程について考える						
第12回	悲嘆：喪失に向き合う			喪失を経験した人々の事例から喪失体験について考える						
第13回	被災者を支援した被災者			惨事ストレスについて考える						
第14回	日本人は不幸なのか			日本人の幸福度は低いのかについて考える						
第15回	まとめ			これまでの議論をまとめ、問題点を整理する						
評価方法及び評価基準	<p>毎回の授業後に小レポートを課する。この小レポートによって評価する（100%）。 小レポートは、（1）授業で学んだ内容のまとめ、（2）授業を通して考えたことや日常生活との関連、の2点について書いてもらう。</p>									
課題等	<p>課題については授業で指示する。</p>									
事前事後学修	<p>授業で扱った内容に関連する書籍や論文を複数講読し、理解を深めることを推奨する。</p>									
教材教科書参考書	<p>指定しない。参考書などは授業で適宜紹介する。</p>									
留意点	<p>特になし。</p>									

科目名	心と身体B		科目ナンバリング	L-GEHU0-09. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目コード	G52007		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	小河 妙子			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し、その意義、方法論を探り、看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ、脳と心の関係、感覚・知覚、行動の成り立ちを探る。記憶、認知、言語、学習、発達、情動・動機づけ、人格、対人関係など、人間行動を総合的に考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	1. 基本概念と語句を理解すること 2. 実験の方法と結果を予測する力をつけること 3. 心の活動について自分の答えを見つけること									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	心理学の歴史と方法			心理学の起源、心理学の諸分野、研究法						
第2回	感覚・知覚			知覚情報処理、知覚の神経基盤、感覚モダリティ						
第3回	記憶			記憶のモデル、ワーキングメモリ、忘却、記憶障害						
第4回	認知			注意の働き、イメージ、日常認知						
第5回	言語			言語発達、言語と概念、読み書き障害						
第6回	学習			馴化、鋭敏化、慣化、古典的条件づけ、オペラント条件づけ						
第7回	発達			インプリンティング、遺伝と環境、愛着、認知発達理論						
第8回	知能と知能検査			知能の定義、知能検査						
第9回	対人関係			コミュニケーション、対人関係						
第10回	まとめ			感覚・知覚から対人関係までのまとめを行い、小テストを実施する						
第11回	情動と動機づけ			感情の仕組みと機能、動機づけ理論						
第12回	人格と行動			人格の理論、人格の形成と変容、パーソナリティ障害						
第13回	日常生活と心の健康			ストレス理論、トラウマ、レジリエンス						
第14回	心理アセスメントと支援			心理アセスメント、心理面接、心理療法、公認心理師						
第15回	脳と心			心の生物学的基盤、脳の構造、神経心理、脳機能障害						
評価方法及び評価基準	第10回目に小テスト（60点）を実施し、15回終了後にレポート（40点）を課す。レポートの評価方法は授業11回目にルーブリックを提示して説明する。									
課題等	レポートを課す。レポートの内容や体裁は授業中に説明する。									
事前事後学修	事前・事後学習として、心理学への興味関心を広げるために、次のHPから興味のある記事を1件以上、読んでおくこと。 日本心理学会HP 機関紙「心理学ワールド」 https://psych.or.jp/publication/world/									
教材教科書参考書	指定しない。参考図書を授業中に紹介する。									
留意点	授業の資料は、事前にTeamsにアップロードして共有する。受講生は可能な限り印刷して持参すること。もし印刷できない場合は、各自で事前にTeamsからダウンロードし、ノートPCを持参して授業中にPDFファイルを開いて授業を受けること。レポートの提出締め切りは厳守（授業中に×切を周知する）。連絡先 小河 ogawa_09@hirosaki-u.ac.jp									

科目名	教育と人間A (生涯学習)		科目ナンバリング	L-GEHU0-10. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52018		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、「生涯教育」に関する歴史や制度の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が「生涯教育」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習とは何かについて、歴史的背景を踏まえながら自分の言葉で説明できる。</p> <p>2) ライフサイクルに応じた学習を実行するための具体的な方法を提案することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・ 社会教育・生涯学習と学校（教科書序章）				グループワーク ディスカッション		
第2回	社会教育・生涯学習の基礎（1）			・ 社会教育・生涯学習の思想と歴史（教科書第1章）				グループワーク ディスカッション		
第3回	社会教育・生涯学習の基礎（2）			・ 社会教育・生涯学習の法制と行政（教科書第2章）				グループワーク ディスカッション		
第4回	社会教育・生涯学習の基礎（3）			・ 社会教育・生涯学習の施設と職員（教科書第3章）				グループワーク ディスカッション		
第5回	社会教育・生涯学習の基礎（4）			・ 社会教育・生涯学習の対象と方法（教科書第4章）				グループワーク ディスカッション		
第6回	社会教育・生涯学習の基礎（5）			・ 世界の生涯学習政策（教科書第5章）				グループワーク ディスカッション		
第7回	学校と社会教育の連携（1）			・ 「開かれた学校」にみる社会教育（教科書第6章）				グループワーク ディスカッション		
第8回	学校と社会教育の連携（2）			・ 地域文化の継承（教科書第7章）				グループワーク ディスカッション		
第9回	学校と社会教育の連携（3）			・ 地域防災教育の展開（教科書第8章）				グループワーク ディスカッション		
第10回	地域における社会教育（1）			・ 貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育 （教科書第9章）				グループワーク ディスカッション		
第11回	地域における社会教育（2）			・ 若者支援と居場所づくり（教科書第10章）				グループワーク ディスカッション		
第12回	地域における社会教育（3）			・ 地域スポーツの推進と生涯学習（教科書第11章）				グループワーク ディスカッション		
第13回	地域における社会教育（4）			・ 地域で生きる障害者（教科書第12章）				グループワーク ディスカッション		
第14回	地域における社会教育（5）			・ 多様性を包摂する社会教育を目指して（教科書第13章）				グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ			・ 授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み（グループワーク、振り返り） 50% ・ まとめレポート 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 吉田武男（監修）手打明敏・上田孝典（編著）『社会教育・生涯学習（MINERVAはじめて学ぶ教職 7）』ミネルヴァ書房、2019年。（ISBN：978-4623084470） 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 									

科目名	教育と人間B (社会教育)		科目ナンバリング	L-GEHU0-11. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52019		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	越村 康英			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 教育・学習という営みは、学校や授業の中だけで完結するものではない。 この授業では、生涯学習の視点から多角的に教育・学習という営みを捉え返し、生涯学習の理念・意義について探求する。 また、生涯学習と、その中心的な領域である社会教育について、法律・制度、政策、実践など幅広い視点から概説していく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 生涯学習の意義について、自己の生き方も結び付けながら理解できるようになること。 (2) 生涯学習・社会教育に関する基礎的な知識を身に付けること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス 生涯学習とは何か			授業の目的・内容・方法・評価について説明する。 生涯学習の基本的な概念について確認する。						
第2回	私の学習史—自己形成のあゆみ			教育・学習と自己形成の関係について振り返る。						
第3回	基本的人権としての教育・学習①			日本における識字問題を切り口に、教育・学習の意義について考察する。						
第4回	基本的人権としての教育・学習②			憲法・教育基本法、ユネスコ学習権宣言などに着目し、教育・学習の意義について掘り下げる。						
第5回	社会教育とは何か			社会教育法に即して社会教育の基本概念を解説する。						
第6回	生涯学習社会の構築と教育行政			教育委員会（社会教育行政）の制度と基本的な役割について解説する。						
第7回	生涯学習社会の構築と公民館			公民館の制度と基本的な役割について解説する。						
第8回	生涯学習社会の構築と図書館			図書館の制度と基本的な役割について解説する。						
第9回	生涯学習社会の構築と博物館			博物館の制度と基本的な役割について解説する。						
第10回	生涯学習を支援する主体の多様化			生涯学習を支援するための公的な仕組みに留まらず、NPO・企業など多様な主体が担っている役割について具体的に把握する。						
第11回	国際社会における生涯教育論の展開			生涯学習をめぐる国際的動向について、ユネスコの動きを中心に解説する。						
第12回	日本における生涯学習政策の展開と特徴			1980年代以降の生涯学習政策の動向をレビューしながら、その特徴について解説する。						
第13回	生涯学習社会の構築に向けた課題			困難を抱えた人々の学習活動の保障・支援など、生涯学習社会の構築に向けた今日的課題について解説する。						
第14回	生涯学習社会の構築に向けた展望			社会教育行政・施設に求められる今日的役割に主眼を置きながら、生涯学習社会の構築に向けた展望を探る。						
第15回	試験 授業のまとめ			授業時間内に小論文形式の試験を行う。 その後、本授業のまとめを行う。						
評価方法及び評価基準	<p>次の2点により総合的に評価する。 (1) 平常点50%（授業時の「小課題」への取り組み、授業への参加姿勢から評価する。） (2) 試験50%（授業の到達目標に照らして評価する。）</p>									
課題等	<p>毎回の授業内容を振り返り、関心をもった点や疑問点について自分自身で探求していくことを期待する。 ※探求方法が分からない場合は、積極的に質問・相談してほしい。</p>									
事前事後学修	<p>新聞やニュース、自治体の広報などを日常的に確認し、教育・学習に関する話題や議論について着目し、自分なりの見方・考え方を持てるようにする。週当たり3時間程度の学習が目安となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】購入が必要な教科書はない。レジュメ・資料などを配布し、授業を進める。 【参考書】社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第9版）』エイデル研究所、2017年、978-4-87168-604-4 その他の参考書は、随時、授業のなかで紹介する。</p>									
留意点	<p>授業への積極的な参加を期待する。</p>									

科目名	歴史と社会 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-12. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録をたどりながら、どのように平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で本人が何を目指したかを学ぶ。民族、宗教、歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア			ベティ・ウィリアムズと平和団体を設立。再教育の重要性を強調						
第2回	アムネスティ・インターナショナル			囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済						
第3回	メナヘム・ベギン			イスラエル首相、サダト大統領との和平合意						
第4回	アンワル・サダト			エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意						
第5回	マザー・テレサ			終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教師信徒会						
第6回	アドルフォ・ベレス・エスキベル			平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞						
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール			スウェーデンの福祉国家論						
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス			ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロコ条約						
第9回	レフ・ワレサ			グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領						
第10回	デズモンド・ムピロ・ツツ			アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教						
第11回	核戦争防止国際医師会議			マサチューセッツ州サマービル、フクシマの被爆許容量修正抗議						
第12回	エリ・ヴィーゼル			強制収容所、小説『夜』、						
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス			コスタリカ、国民解放党、大統領						
第14回	国際連合平和維持活動			PK0、ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動						
第15回	リゴベルタ・メンチュウ			先住民の権利宣言、「万人の健康社」の設立、						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40%</p> <p>毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。</p>									
課題 等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前 事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし。									
留意 点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録をたどりながら、どのように平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で本人が何を目指したかを学ぶ。民族、宗教、歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ネルソン・マンデラ			アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領						
第2回	フレデリック・デクラーク			国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止						
第3回	ヤセル・アラファート			ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、						
第4回	シモン・ペレス			新党ラフィ、労働党、PLOとの和解						
第5回	イツハク・ラビン			パルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言						
第6回	パグウォッシュ会議			科学と国際問題に関する会議、ラッセル・アインシュタイン宣言						
第7回	ジョゼフ・ロートブラット			マンハッタン計画、パグウォッシュ会議、						
第8回	カルロス・ベロ			司教叙階、東ティモール人包括対話						
第9回	ジョゼ・ラモス=ホルタ			東ティモール民主協会、自決権行使、独立						
第10回	地雷禁止国際キャンペーン			対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約						
第11回	ジョディ・ウィリアムズ			エルサルパドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶						
第12回	ジョン・ヒューム			クレジットユニオン運動、ベルファスト合意						
第13回	デヴィッド・トリンブル			北アイルランド、社会民主労働党						
第14回	国境なき医師団			ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅						
第15回	金大中			新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40%</p> <p>毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。</p>									
課題 等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前 事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし。									
留意 点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポート提出すれば、まだよい。									

科目名	現代の社会と文化 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-14. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 20世紀以降の先進国の文化や生活様式に多大な影響を与え続けている、メディアの変化および消費社会化について学ぶ。それぞれ、メディア技術の発展がコミュニケーションや社会関係にもたらした影響、消費社会化がマクロ社会や人間関係、生き方にもたらした変化について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの概念、歴史を知ることにより、私たちのコミュニケーションのあり方を相対化してみられるようになる ・消費社会に関する問題を理解することによって、私たちが日常的に行っている消費行動の社会的な意味を理解できるようになる ・情報、消費に媒介されて成立している現代文化のありようを長い時間軸の中で理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	後期近代社会における社会変動			情報社会化、消費社会化、リスク社会化						
第2回	メディアとは何か			メディアの概念						
第3回	メディアの歴史（1）			メディアの発展とコミュニケーションの変化						
第4回	メディアの歴史（2）			インターネット上のコミュニケーション						
第5回	メディアとリアリティ			メディアと現実の関係						
第6回	マス・メディアの効果（1）			弾丸理論、限定効果説、強力効果説						
第7回	マス・メディアの効果（2）			マス・メディアの送り手と受け手				グループワーク		
第8回	消費社会の歴史と特徴（1）			消費社会の問題						
第9回	消費社会の歴史と特徴（2）			日本の消費社会、欧米の消費社会						
第10回	消費社会と文化の問題（1）			欲求の操作と競争的消費						
第11回	消費社会と文化の問題（2）			記号の消費と他者性の問題						
第12回	経済成長と幸福			途上国の幸福/先進国の幸福						
第13回	消費社会と環境問題			資源問題と自然環境問題、大量生産と大量消費						
第14回	南北問題と消費社会			南北問題における生産者と消費者、フェアトレード						
第15回	脱物質主義化			欲求階層論、脱物質主義化、倫理的消費				グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。試験では、基本的な概念を理解できているかどうか、およびそれら基礎的な概念を使用して現実の社会に存在している問題を自らの考えに基づいて説明できるかという点を評価します。論述問題に関しては、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	教科書は使用しません。参考図書は授業中に指示します。									
留意点	Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます									

科目名	現代の社会と文化B		科目ナンバリング	L-GEHU0-15. SS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会学の基礎的な知識を学ぶことで、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、ジェンダー、セクシュアリティ、家族、階級・階層、健康・医療など。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアーに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	社会学とは何か（1）		人文社会科学と社会学							
第2回	社会学とは何か（2）		社会学のはじまり（デュルケム、ウェーバー、ジンメル）							
第3回	自己の社会学（1）		自己とは何か							
第4回	自己の社会学（2）		社会的に定義される自己							
第5回	自己の社会学（3）		自己と他者のコミュニケーション							
第6回	ジェンダーとセクシュアリティ（1）		ジェンダーの概念と特徴							
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（2）		ジェンダーと社会							
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（3）		セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ							
第9回	家族の社会学（1）		家族とは何か							
第10回	家族の社会学（2）		結婚と家族							
第11回	家族の社会学（3）		戦後社会における家族の変化					グループワーク		
第12回	階級・階層の社会学（1）		階級・階層の概念、社会移動							
第13回	階級・階層の社会学（2）		戦後社会における階級・階層の変動							
第14回	健康・医療の社会学（1）		健康の概念、医療化							
第15回	健康・医療の社会学（2）		薬害問題					グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかを試す問題を出します。論述問題に関しては、見解のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教科書参考書	教科書：宇都宮京子・西沢晃彦編『よくわかる社会学 [第3版]』ミネルヴァ書房（ISBN: 978-4-623-08971-0） 参考図書は授業中に指示します。									
留意点	Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます									

科目名	情報の科学 A		科目ナンバリング		L-GENAO-00. HKN	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期	
			科目 コード	1限目								G53000
				3限目								G53001
				4限目								G53002
区分	一般教育科目	必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独		
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 パソコンの基本的な操作法と代表的なアプリケーションであるワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を学ぶ。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>											
到達 目標	<p>パソコン初心者でも、基本文書等の作成ができるようになることを目標とする。レポートや資料の作成に困らない技能を身につける。</p>											
授 業 計 画												
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修							備考		
第1回	パソコンの起動とWindowsの基礎		Windowsの起動と終了 アプリケーションソフトの基本操作									
第2回	インターネット		インターネットの利用							情報倫理を含む		
第3回	Word 1		Wordの起動と終了 文字入力									
第4回	Word 2		漢字変換 文章の入力・訂正									
第5回	Word 3		ファイルの保存と読み込み・ページ設定と印刷 文書の作成・文字の書式									
第6回	Word 4		表・画像と図形									
第7回	課題第1回		Word課題									
第8回	情報検索／課題第2回		インターネットで情報検索							インターネットによる 学術情報の利用		
第9回	電子メール／課題第3回		電子メール・添付ファイル							情報セキュリ ティ・情報倫理を 含む		
第10回	Excel 1		Excelの起動と終了 データ入力の基礎									
第11回	Excel 2		ワークシート編集 関数を使った計算式・相対参照と絶対参照									
第12回	Excel 3		罫線・グラフ・条件判定									
第13回	課題第4回		Excel課題									
第14回	PowerPoint 1		PowerPointの起動・プレゼンテーションの作成									
第15回	PowerPoint 2		アニメーション効果・スライドショー									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。</p>											
課題 等	<p>授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。</p>											
事前事 後学修	<p>教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>											
教材 教科書 参考書	<p>『30時間でマスターOffice 2016』実教出版(本体1000円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784407340181</p>											
留意 点	<p>受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。</p>											

科目名	情報の科学B		科目ナンバリング		L-GENA0-01. SS	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目 コード	3限目 4限目							
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの効果的な使用法を、問題練習を通じて学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>										
到達 目標	文書や資料の実践的な作成能力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	ガイダンス+コンピュータの基本操作		ガイダンス コンピュータの基本操作								
第2回	Word 1		文書の作成と管理								
第3回	Word 2		一般的なビジネス文書の作成								
第4回	Word 3		シンプルなレポートや報告書の作成								
第5回	Word 4		表、画像、図形を使った文書の作成								
第6回	課題第1回		Wordの課題								
第7回	PowerPoint 1		プレゼンテーションの企画／わかりやすいストーリー構成								
第8回	PowerPoint 2		センスアップするレイアウトデザイン								
第9回	PowerPoint 3		イメージを伝えるイラスト・写真活用								
第10回	課題第3回		PowerPointの課題								
第11回	Excel 1		表作成の基本操作								
第12回	Excel 2		表を見やすく使いやすくする編集操作								
第13回	Excel 3		数式・関数を活用した集計表の作成								
第14回	Excel 4		グラフの基本								
第15回	課題第2回		Excelの課題								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45%</p> <p>課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。</p> <p>試験なし。</p> <p>単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。</p>										
課題 等	<p>授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。</p> <p>※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。</p>										
事前 事後 学修	<p>教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。</p> <p>事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>										
教材 教科書 参考書	『情報利活用基本演習Office2016対応』日経BP社(本体1600円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784822297985										
留意 点	<p>定員：各コマ40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意)</p> <p>受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。</p> <p>USBメモリーを用意すること。</p>										

科目名	環境の科学		科目ナンバリング	L-GENAO-02. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できるようにする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	近年の自然災害に学ぶ①			人口密集地帯での自然災害					講義	
第2回	近年の自然災害に学ぶ②			山間部で生じる自然災害					講義	
第3回	近年の自然災害に学ぶ③			ハザードマップと地理院地図					講義	
第4回	沖積平野における自然災害①			沖積平野の地形をよむ（空中写真判読）					講義	
第5回	沖積平野における自然災害②			津波・高波による自然災害のしくみ					講義	
第6回	沖積平野における自然災害③			河川氾濫による自然災害のしくみ					講義	
第7回	沖積平野における防災・減災			各地域における防災と減災のとりくみについて					講義	
第8回	火山のくに日本①			火山の定義					講義	
第9回	火山のくに日本②			火山地形とその形成過程					講義	
第10回	火山災害①			マグマと溶岩流について					講義	
第11回	火山災害②			山体崩壊による大規模災害					講義	
第12回	火山災害③			降下火山灰がもたらす災害					講義	
第13回	火山災害④			ポンペイの噴火から学ぶ噴火様式					講義	
第14回	火山からの恩恵			火山が人間にもたらす恵み					講義	
第15回	火山の周辺地域における防災・減災			火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意 点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	生命の科学A		科目ナンバリング	L-GENAO-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 生命の誕生からヒトの成長過程を学習し、更に、最先端生命の科学を習得する。DVDおよび解剖生理学のアニメーションを視聴し理解を深める。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>生命の誕生から生体の形態や機能について学ぶ。 最先端生命の科学について学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	生体のしくみ I			ガイダンス、細胞と組織の概要とウイルスについて（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第2回	最先端の生命の科学 I			iPS細胞の概要、DVD視聴「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学iPS細胞研究所」						
第3回	最先端の生命の科学 II			iPS細胞を用いた研究、DVD視聴「夢の扉 iPS細胞の未来」						
第4回	生体のしくみ II			脳と神経（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第5回	生体のしくみ III			骨と筋肉（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第6回	生体のしくみ IV			消化器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第7回	生体のしくみ V			呼吸器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第8回	生体のしくみ VI			循環器①（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第9回	生体のしくみ VII			循環器②（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第10回	生体のしくみ VIII			感覚器①（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第11回	生体のしくみ IX			感覚器②（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第12回	生体のしくみ X			泌尿器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第13回	生体のしくみ XI			内分泌（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第14回	生体のしくみ XII			血液と免疫（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第15回	まとめ			総括およびレポート課題提出						
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsにより提出する。									
事前事後学修	配布されたプリントを復習しておくこと。									
教材教科書参考書	プリントとスライドを併用する。参考書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学、松村 譲児（ナツメ社）、ISBNコード 978-4-8163-6294-1、これだけ！iPS細胞、夏緑（秀和システム）、ISBNコード 978-4-7980-4249-7									
留意点	普段から生態系や環境について興味をもち、新聞の科学欄に必ず目を通す姿勢を身につける。									

科目名	生命の科学B		科目ナンバリング	L-GENAO-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明。生命科学と現代社会のかかわり			授業の進め方と評価方法の説明、自然科学とは						
第2回	細胞：生命の基本単位			生物（生命）とは、生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか				ペアまたはグループワーク		
第3回	メンデル遺伝学			メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか						
第4回	個人差、遺伝子の変異			遺伝子の変異とはなにか？、遺伝子多型、一塩基多型を調べる				アクティブラーニング		
第5回	DNAの複製、転写、翻訳と変異			DNAの構造と複製、遺伝子の転写から翻訳のしくみ、変異の種類						
第6回	エピゲノム			エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノム情報は遺伝する？						
第7回	感染と免疫			人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、免疫応答のしくみ						
第8回	脳はどこまでわかったか			ヒトの脳の構造、神経細胞、記憶と学習の種類、記憶と長期増強						
第9回	身体運動の生命科学1			脳の構造と機能に対する身体運動（身体活動）の影響						
第10回	がんとはどのような現象か			日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療						
第11回	食と健康1			食べるとは、消化と吸収、エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題						
第12回	食と健康2			肥満、エネルギー摂取と消費のバランス、ダイエット（減量、体脂肪量の減少）						
第13回	身体運動の生命科学2			身体運動（身体活動）と生活習慣病について、糖尿病について、2型糖尿病（または高血糖）への身体運動の効果とその分子メカニズム				ペアまたはグループワーク		
第14回	老化			老化とはどのような状態か、老化と死亡率との関係、老化の実験モデル、老化のメカニズム、老化の予防は可能か？						
第15回	生命科学技術と生命倫理			ゲノム編集、人口妊娠中絶						
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題を出題して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	レポートの評価基準またはおさえておくべきポイントを、研究室の前の掲示板に掲示する予定です。									
事前事後学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）でその情報を調べてください。									
教科書参考書	教科書：現代生命科学（第3版）、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033（必ず購入してください。） 参考書：①カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書、第1巻～第3巻、D・サダヴァ 他著、石崎 泰樹／丸山 敬 監訳・翻訳 ②健康に老いる 老化とアンチエイジングの科学 後藤佐多良 著、東京堂出版（①、②の参考書は購入する必要はありません。） 参考書：基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（羊土社）など多数あります。									
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。									

科目名	科学と現代 A		科目ナンバリング	L-GENAO-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53008		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では、身の回りのもの・現象や新聞・ニュースの科学用語などに題材を取って、科学がどのように役立っているかを 実感してもらうことを目標とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	身近な自然現象、身の周りのハイテク製品、社会を支える科学技術がどのような原理に基づいているのかを学ぶ。また、現代物理の自然観を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	物理学の構成		巨視的世界と微視的世界							
第2回	単位と次元		SI単位系の成立 組立単位と次元						プリント配布	
第3回	力学の法則		運動の三法則 エネルギー保存則と運動量保存則							
第4回	円運動と遠心力		慣性力 等速円運動と遠心力						プリント配布	
第5回	エネルギー		力学的なエネルギー エネルギー保存則とエネルギーの転換						プリント配布	
第6回	振動現象		振動 振り子・パラメーター励振						プリント配布	
第7回	波と電磁波		波の要素・音波 電磁波						プリント配布	
第8回	熱と温度		熱平衡・温度 熱と比熱						プリント配布	
第9回	原子核と放射線		原子と原子核の構造・原子核の崩壊 原子核の崩壊様式と放射線						プリント配布	
第10回	核分裂・核融合		核反応の保存則・核分裂・核分裂連鎖反応と臨界 核融合						プリント配布	
第11回	放射線と医療		放射線の種類・X線撮影・核医学診断画像・ガン治療						プリント配布	
第12回	宇宙進化と元素の起源		宇宙の始まり・宇宙の元素組成・恒星中での元素合成 超新星爆発による核融合						プリント配布	
第13回	素粒子		素粒子の分類・4つの相互作用						プリント配布	
第14回	ニュートリノ		弱い相互作用 ニュートリノ振動とニュートリノの質量						プリント配布	
第15回	フラクタル		自己相似性とフラクタル フラクタル次元						プリント配布	
評価 方法 及び 評価 基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題 等	試験の答えは採点して返却する。									
事前 事後 学修	授業の理解には、一部それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	必要に応じてプリント配布									
留意 点										

科目名	科学と現代B		科目ナンバリング	L-GENAO-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53009		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 数学の言葉と技法は、自然現象から経済・社会などの人間活動まで、様々な事象を記述し解析するのに役立っている。計算技術よりも考え方に重点を置いて解説する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	確率・統計の基本的な概念を理解し、考え方を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	確率の基礎		確率の性質 確率の加法定理							
第2回	確率的推論(1)		確率の乗法定理 独立試行							
第3回	確率的推論(2)		ベイズの定理							
第4回	統計学の考え方		統計学の目的・統計学の種類 統計データの整理法							
第5回	代表値と散布度		代表値 散布度							
第6回	正規分布		確率分布・正規分布 正規分布の標準化・正規分布表							
第7回	相関と回帰分析		相関・相関係数 回帰分析							
第8回	推定と検定(1)		母集団と標本 点推定							
第9回	推定と検定(2)		母分散が既知のときの母平均の区間推定 t分布							
第10回	推定と検定(3)		母分散が未知のときの母平均の区間推定							
第11回	推定と検定(4)		母比率の区間推定							
第12回	推定と検定(5)		検定の手順 検定の誤り							
第13回	推定と検定(6)		両側検定と片側検定 母平均の検定							
第14回	推定と検定(7)		母比率の検定							
第15回	試験解答		試験解答						この授業は最終週 に行う	
評価方法及び評価基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題等	試験の答えは採点して返却する。									
事前事後学修	授業の理解には、それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント配布									
留意点	15週目(今年度は1月26日)に試験を行い、最終回に上記第15回の内容を行う予定である。									

科目名	科学と現代C		科目ナンバリング	L-GENAO-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を理解し、地形を形成する自然現象についての理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	イントロダクション			自然地理学の定義				講義		
第2回	世界の地形環境			陸地と海底の大地形と地質				講義		
第3回	気候因子と気候要素			身近な地域の気候の把握				講義		
第4回	ケッペンの気候区分①			計算式による気候区分				講義		
第5回	ケッペンの気候区分②			計算式による気候区分				講義		
第6回	ケッペンの気候区分③			動気候学的にとらえるケッペンの気候区分				講義		
第7回	第四紀に生じた気候変動①			氷期-間氷期サイクル				講義		
第8回	第四紀に生じた気候変動②			完新世における縄文海進				講義		
第9回	第四紀における地形の形成①			気候変動がもたらした段丘の形成				講義		
第10回	第四紀における地形の形成②			地盤隆起がもたらした段丘の形成				講義		
第11回	第四紀における地形の形成③			活断層と断層地形				講義		
第12回	東北の地帯構造①			山と盆地の配列				講義		
第13回	東北の地帯構造②			プレートテクトニクス				講義		
第14回	弘前の地形①			地形図の読図				講義		
第15回	弘前の地形②			台地を刻む開析谷				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学習	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意 点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	科学と現代D		科目ナンバリング	L-GENAO-08.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	長南 幸安			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。						
第2回	原子のすがた①			体を作る物質・原子の構造						
第3回	原子のすがた②			電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子						
第4回	「もの」の量の表し方			物質量の表し方あれこれ						
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか			濃度の種類と定義						
第6回	「もの」の成り立ち①			原子の結合						
第7回	「もの」の成り立ち②			分子の結合・化学反応						
第8回	有機化学①			有機化合物の分類法と表し方						
第9回	有機化学②			生体高分子の構造・消化と酵素						
第10回	水の化学①			からだのなかの液体						
第11回	水の化学②			イオンと電解質						
第12回	からだの中の現象①			浸透現象						
第13回	からだの中の現象②			酸と塩基						
第14回	からだの中の化学反応			化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル						
第15回	まとめ			今までの総まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。</p>									
課題 等	<p>期末試験の採点後の答案は、希望者に開示します。</p>									
事前事 後学修	<p>学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いつみ 共著 化学同人 ISBN: 978-4-7598-1543-6</p>									
留意 点	<p>毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修者向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー: 月～金 8:00～8:30(弘前大学教育学部4-29号室)</p>									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目ナンバリング	L-GENAO-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因				グループワークを含む		
第3回	栄養と健康（1）			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康（2）			肥満						
第5回	心身の健康を知る（1）			健康診断（身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線）						
第6回	心身の健康を知る（2）			健康診断（血液検査；血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値）						
第7回	心身の健康を知る（3）			メタボリックシンドローム、心の健康						
第8回	体力および持久力の指標			体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標				グループワークを含む		
第9回	身体活動・体力と疾病の関係			身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力						
第10回	身体運動のプログラム			効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法						
第11回	身体活動の指針			WHOと日本の身体活動指針						
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死						
第13回	アルコール・喫煙・睡眠と健康			アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割						
第14回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第15回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席者につき、定期試験（筆記試験またはレポート）（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。</p>									
課題等	なし									
事前事後学修	<p>教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。</p>									
教材教科書参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来てください。Teamsを使用します。									

科目名	地域研究 A		科目ナンバリング	L-GERE0-00. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G54000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	畠山 篤			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 地元の津軽の民俗には、この地域の国魂（くにたま）ともいうべき霊峰・岩木山にまつわる神と鬼の伝承が夥しくある。この神山の聖なる神話の諸相をみ、その生成を辿りながら、その真相・意義に迫りたい。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	1 津軽の岩木山の神と鬼の伝承の生成・構造・主題に迫れる。 2 諸説を整理できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	旧百沢寺の語る岩木山権現の由来譚の概要			現岩木山神社の語る権現の由来譚の概要を知る。						
第2回	旧百沢寺の語る岩木山権現の由来譚の生成			現岩木山神社の語る由来譚の生成を知る。						
第3回	高照神社の語る岩木山権現の由来譚の概要と生成			高照神社の語る岩木山権現の概要とその生成を知る。						
第4回	イタコの語るお岩木山一代記			お岩木山一代記の概要を知る。						
第5回	東アジアに流布するシャーマン文化			お岩木山一代記が東アジアに流布するシャーマン文化の一翼を担うことを知る。						
第6回	上記三つの由来譚の生成			上記三つの由来譚が生成する基盤と時代相を探る。						
第7回	津軽の鬼伝承の単純型と山幸型			津軽の鬼伝承の単純型と山幸型の事例を知る。						
第8回	鬼伝承の農耕型と鉄器型			鬼伝承の農耕型と鉄器型の事例を知る。					レポート提出(1)	
第9回	鬼伝承の民間巫者型と退治型			鬼伝承の民間巫者型と退治型の事例を知る。						
第10回	鬼伝承の権威守護型			鬼伝承の権威守護型の事例を知る。						
第11回	鬼沢の鬼伝承の大人伝承と鬼神			鬼沢の鬼伝承の大人型と鬼神社の由来を知る。						
第12回	鬼沢の鬼の田の由来			鬼沢の鬼の田などの伝説を知る。						
第13回	鬼沢の七日堂祭の由来			鬼伝承が祭式化された七日堂祭の構造を解明する						
第14回	鬼沢の鬼の寺の由来			鬼の寺の由来を知る。					レポート提出(2)	
第15回	まとめ			津軽と神と鬼の伝承を振り返る。						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。									
課題 等	テキスト以外の著書を、テキストの参照文献を頼りにして極力読むこと。									
事前 事後 学修	テキストを事前と事後に目を通すこと。									
教材 教科書 参考書	『岩木山の神と鬼』（ISBN978-4-86726-790-5）（畠山篤）									
留意 点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。									

科目名	地域研究B		科目ナンバリング	L-GEREO-01. SN	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G54001	時間	30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる、葛西 久志、 高橋 和幸、大瀬 富士子			授業 形態	講義	オムニバス	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 講義はオムニバス形式で行う。3学部教員が共同体制で行う講義で、広く専門的な観点から、津軽や東北、あるいは日本といった、視点を変えて津軽のような「方言主流社会」において、方言話者と非方言話者との共生について、また世代間交流の問題についても学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	方言主流社会における生活者を、どのように支援していくか、そのための理論と方法を学び、実践に応用できるレベルに達することを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	地域課題とコミュニケーション		世代間コミュニケーション・方言理解・地域理解の全体像を示し、現代社会の課題として問題の位置づけをする					4/12：今村		
第2回	〈言語1〉 「方言概説」		地域方言としての津軽弁・東北方言と共通語の歴史について知る					4/19：今村		
第3回	〈言語2〉 「先行研究から」		医療・看護・福祉と方言研究の研究史を実際の資料を使って概観する					4/26：今村		
第4回	〈言語3〉 「津軽の問題を中心に」		地域課題としての高齢化と世代間コミュニケーションギャップの問題を考える。講義時の内容に関するグループワークをする。					5/10：今村 グループワークあり		
第5回	〈言語4〉 「災害と方言」		東日本大震災における被災地での支援者と被災者とのコミュニケーションギャップについて考える。グループワークをする。					5/17：今村グループワークあり		
第6回	〈言語5〉 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」1		これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 高齢化					5/24：今村		
第7回	〈言語6〉 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」2		これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 外国人労働者。					5/31：今村		
第8回	〈言語7〉 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」3		これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 高齢化と外国人労働者問題、「方言支援ツール」の活用を考える。					6/7：今村		
第9回	〈言語8〉 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」4		これからの医療・看護・福祉を取り巻く方言問題の解決策を探る。討論・グループワーク。レポート課題。					6/14：今村 グループワークあり		
第10回	「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える					6/21：大瀬		
第11回	〈社会福祉1〉 「津軽弁と暮らしの心 -病をもった人たちの関わりから-」		①精神科診療場を方言（津軽弁）から理解する。②コミュニケーションにおける意思伝達と精神障害者の行動特性を学ぶ。③その他					6/28：葛西		
第12回	〈社会福祉2〉 「方言と文化、暮らし1」		同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再確認して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるように、話題提供したい。					7/16：高橋		
第13回	〈社会福祉3〉 「方言と文化、暮らし2」		自分が生まれ育った地域に対する深い愛着を持ってふるさとが絶対的だという心情の形成に、方言は大きな影響力をもっているものと思われる。そこで、都道府県別幸福度ランキングから様々な地域特性を紹介して一緒に笑ったり、なぜ地域差が生まれるか一緒に考えたりしたい。					7/13：高橋		
第14回	〈社会福祉3〉 「方言と文化、暮らし3」		地方に暮らすクライアントの語りを通して知る、クライアントの生活史と生活問題の発生原因について一緒に考える。					7/20：高橋		
第15回	総括		オムニバス講義の総括をする					7/27：今村		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。講義時間中の課題によって出席に替える場合もある。レポートの場合、講義内容を整理しただけのものは「可」、先行研究を調べたものは「良」、先行研究を広く調べ見聞を得ているものは「優」、さらに独創的な見解にいたったものは「秀」とする。									
課題等	各担当者の指示による									
事前事後学修	講義時に紹介する参考文献やURLを中心として、調べ学習をし、レポートを書く。									
教材教科書参考書	各担当者により、プリント等を配布する。また、Web上に公開した問診教材およびデータベースを利用する。									
留意点	担当者により、講義時に課題・レポート・実技等を課すので、それぞれの指示に従うこと。オリエンテーション時に資料を配布する。									

科目名	教養演習 A		科目ナンバリング	L-GELS9-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50026		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>野球は1872年に日本に伝来し、現在では人気スポーツの1つとなっている。そこで、「野球」というフィルターを通して、明治時代から現在までの日本の歴史について考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	野球の歴史を学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	19世紀の日本野球史			19世紀の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第3回	1900～10年代の日本野球史			1900～10年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第4回	1920年代の日本野球史			1920年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第5回	1930年代の日本野球史			1930年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第6回	1940～50年代の日本野球史			1940～50年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第7回	1960～70年代の日本野球史			1960～70年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第8回	1980～90年代の日本野球史			1980～90年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第9回	2000～10年代の日本野球史			2000～10年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第10回	2020年代以降の日本野球史			2020年代以降の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第11回	野球と文化（1）			野球と文化について考える。				ディスカッション		
第12回	野球と文化（2）			野球と文化について考える。				レポート提出		
第13回	レポート発表（1）			レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第14回	レポート発表（2）			レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第15回	まとめ			授業の総括。						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材教科書参考書	特に指定しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	教養演習B		科目ナンバリング	L-GELS9-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50027		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 明治時代から現在に至るまでの音楽文化について、「展示」に着目し、その変遷や特徴を学ぶ。あわせて、当時の流行音楽や社会的背景についても理解する。これらを通じ、多面的思考力を養う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	音楽文化について学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	明治期の音楽文化		明治期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第3回	大正期の音楽文化		大正期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第4回	音楽博物館建設運動と日本社会（1）		1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。					ディスカッション		
第5回	音楽博物館建設運動と日本社会（2）		1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。					ディスカッション		
第6回	音楽博物館建設運動と日本社会（3）		1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。					ディスカッション		
第7回	戦時中の音楽文化		戦時中の音楽資料の展示や音楽文化について考える。					レポート提出		
第8回	中間レポート発表		レポートを発表する。					プレゼンテーション		
第9回	1940年代後半の音楽文化		1940年代後半の音楽資料の展示や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第10回	1950年代の音楽文化		1950年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第11回	1960年代の音楽文化		1960年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第12回	1970年代～1990年代の音楽文化		1970年代～1990年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。					ディスカッション		
第13回	2000年代以降の音楽文化		2000年代以降の音楽博物館論や音楽文化について考える。					ディスカッション レポート提出		
第14回	期末レポート発表		レポートを発表する。					プレゼンテーション		
第15回	まとめ		授業の総括。							
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材教科書参考書	【参考書】井上裕太『日本音楽博物館論』同成社、2021、ISBN:978-4-88621-858-2									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	教養演習C		科目ナンバリング	L-GELS9-02. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50028		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える会話実用表現を中心に学ぶ。また、現代フランスを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「フランス事情」に関する短いプレゼンの時間も設定する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	文法を正確に理解すること（CEFRのA2レベル）。また、フランス社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		発音の基礎					問題解決型学修		
第2回	国籍や職業をたずねる		主語人称代名詞、基本動詞					問題解決型学修		
第3回	様々な-er動詞		基本動詞、否定文					問題解決型学修		
第4回	好きなものをたずねる		名詞と定冠詞					問題解決型学修		
第5回	「どこで」「だれと」をたずねる		疑問詞、不定冠詞					問題解決型学修		
第6回	所有を表現する		形容詞					問題解決型学修		
第7回	様々な活動について話す		否定の復習					問題解決型学修		
第8回	食事について話す		部分冠詞					問題解決型学修		
第9回	よく行く場所について話す		前置詞、人称代名詞・強勢形					問題解決型学修		
第10回	習慣についてたずねる		代名動詞					問題解決型学修		
第11回	計画についてたずねる		近未来					問題解決型学修		
第12回	行きたい場所についてたずねる		命令形					問題解決型学修		
第13回	過去の出来事についてたずねる		複合過去					問題解決型学修		
第14回	一日の行動を話す		半過去					問題解決型学修		
第15回	まとめ		文法項目のまとめ					問題解決型学修		
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『 <i>Dis-moi tout!</i> 』（Lena Giunta, Tomohiko Kiyooka, 白水社、本体2600円、ISBN978-4-560-06140-4）									
留意点	未習者は相当の努力が必要。									

科目名	教養演習 D		科目ナンバリング	L-GELS9-03. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50029		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 古代ローマ帝国の公用語であり、中世から近代初頭にいたるまでカトリック教会を中心とする全ヨーロッパの知識層の共通言語であるラテン語を学ぶ。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	できるだけ多くの文法項目を理解し、ラテン語の文章を正確に日本語訳できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			文字、発音、音節とアクセント				問題解決型学修		
第2回	現在直説法能動相、第一、第二活用			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第3回	名詞、第一活用			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第4回	動詞、第三、第四、第五活用			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第5回	名詞、第二活用（1）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第6回	形容詞活用、第一、第二活用（1）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第7回	未完了過去直説法能動相			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第8回	名詞、第二活用（2）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第9回	形容詞活用、第一、第二活用（2）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第10回	未来直説法能動相			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第11回	前置詞、所格、eo			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第12回	不定詞、sum, possum			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第13回	名詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第14回	形容詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
第15回	完了直説法能動相			左記項目を学ぶ				問題解決型学修		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前 事後 学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『ラテン語初歩 改訂版』（田中利光著、岩波書店、本体3400円、ISBN978-4000024198）									
留意 点	初回時、教科書必ず持参すること。									

科目名	教養演習H		科目ナンバリング	L-GELS9-07. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50033		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概 要 等	【授業の主旨】									
	<p>文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現、聞き取りを中心に学ぶ。また、現代ドイツを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	文法を正確に理解すること。また、ドイツ社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	ガイダンス、発音練習			綴りと発音を理解する				問題解決型学修		
第2回	人称代名詞、動詞の現在人称変化			動詞の変化を学ぶ				問題解決型学修		
第3回	名詞と性、定冠詞、不定冠詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第4回	人称代名詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第5回	前置詞、否定表現			kein, nicht の用法				問題解決型学修		
第6回	形容詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第7回	従属接続詞			従属接続詞を用いた文を学ぶ				問題解決型学修		
第8回	話法の助動詞			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第9回	動詞の3基本形			不定詞、過去基本形、過去分詞を学ぶ				問題解決型学修		
第10回	現在完了			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第11回	分離動詞、非分離動詞、再帰動詞			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第12回	関係代名詞			関係代名詞を用いた文を学ぶ				問題解決型学修		
第13回	受動文			種類と用法を学ぶ				問題解決型学修		
第14回	接続法			I 式、II 式の用法を学ぶ				問題解決型学修		
第15回	まとめ			全体のまとめ				問題解決型学修		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前 事後 学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『Alternativ Deutsche Grammatik als zweite Fremdsprache』（Michio Kamitake, 郁文堂、CD付2600円、ISBN9784261012606）									
留意 点	未習者は相当の努力が必要。									

科目名	教養演習K (留学生のための日本語・上級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-10.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50036		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>来日する留学生の日本語能力向上を目指した授業のため、個別に授業計画を行うが、基本的にはアカデミックな文章の【読解能力を伸ばす】ことを目標とし、授業を行う。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	来日時点の日本語レベルよりも1つ2つ上のレベルを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の進め方・日本語学習のメタ認知						
第2回	10代のうちに考えておくこと			文章にサブタイトルを付ける						
第3回	「草は生きているか」疑うことが命を知る入口			科学的に明らかにされている事柄を3つ抜き出す						
第4回	仕事選び			文章を要約する						
第5回	障害と私			気遣いと適度な距離感について理解する						
第6回	フィンランドの学校で			学校教育の国別比較						
第7回	マニュアル社会			筆者の独特な表現が何を意味するものが何かを考える						
第8回	遺伝子検査			現状・良い点・悪い点・自分の意見の順番に文章を構成する。						
第9回	コミュニケーションの日本語			意見が違う人とのコミュニケーションの取り方						
第10回	丸裸の山で			環境に関する文章を読み、筆者の主張を理解する。						
第11回	発表①			前回のテーマを受け、特定の食料品を生産することで生活環境にどのような影響があるのかを調べ、発表する。				ディスカッション		
第12回	何かを選択すればゴールに近づく			文章構成を理解し、段落ごとの要旨をまとめる。						
第13回	発表②			前回のテーマを受け、人生の選択に関して自分の経験を振り返り、話し合う。				ディスカッション		
第14回	とても大事な水の話			これまで培った能力を用いて復習						
第15回	見通す力			これまで培った能力を用いて復習						
評価方法及び評価基準	<p>1. 授業ごとに用意された問題を解き、教員に提出。全問題に答え提出すれば、1回の授業につき6.6ポイント。</p> <p>2. 発表ごとに設定された目標の到達度によって総合的評価を行う。1回の発表につき満点6.6ポイントから減点方式で評価する。</p>									
課題等	上記に記載があるので省略する。									
事前事後学修	語彙の意味は最低限調べておく									
教材教科書参考書	「話す書くにつながる日本語読解」アルク ISBN 978-4-7574-2685-6									
留意点	特になし									

科目名	教養演習Ⅰ (留学生のための日本語・上級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-11.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50037		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	【授業の主旨】									
	来日する留学生向けの授業のため、個別に授業計画を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達目標	来日時点の日本語レベルよりも1つ2つ上のレベルを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	音楽と音の効果			形容詞の名詞化・わけがない・Vこと・Vこそ						
第2回	いい数字・悪い数字			NほどVない・Nからすると						
第3回	いい数字・悪い数字			Nからすると・疑問後疑問文より、～						
第4回	「面白い」日本			Vテ/N以来・普通形ということだ						
第5回	「面白い」日本			Vルまでもない・Nであろうと						
第6回	くしゃみ			Vタとたん・～だす（開始）						
第7回	くしゃみ			Nとともに（一緒に、同時に、伴って）						
第8回	私の町			Vつつある・Nを中心に・Vところに・Vところで						
第9回	私の町			意志動詞・無意志動詞・Nらしい・Nらしさ・Nらしく						
第10回	この日に食べなきゃ意味がない			Nにとって・～にとって・～らしい						
第11回	この日に食べなきゃ意味がない			～としたら・Vル/Vナイないことになる・グラフの言葉						
第12回	お相撲さんの世界			Nだらけ・Vナイないと・～に加えて						
第13回	お相撲さんの世界			Vル/Vナイないように・Vてくる・「接続詞・副詞」の整理						
第14回	第一印象			～にすぎない・Nさえ～ば/～なら・「さえ・しか・こそ」の整理						
第15回	第一印象			～というものではない・Vマスかねない・～ものの						
評価方法及び評価基準	1. 授業ごとに用意された問題を解き、教員に提出。全問題に答え提出すれば、1回の授業につき6.6ポイント。 2. 発表ごとに設定された目標の到達度によって総合的評価を行う。1回の発表につき満点6.6ポイントから減点方式で評価する。									
課題等	上記に記載があるので省略する。									
事前事後学修	語彙の意味は最低限調べておく									
教材教科書参考書	平井悦子・三輪さち子（2020）「中級を学ぼう」スリーエネットワーク ISBN 978-4-88319-788-0 C0081									
留意点	特になし									

科目名	教養演習O (日本語教育概論A)		科目ナンバリング	L-GELS9-14.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50040		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観しつつ、本学で履修する専門分野の全体像を把握する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。 日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	日本語教育概論Ⅰ			1. 日本語教師とは 2. 増加する日本語学習者（国内編）						
第2回	日本語教育概論Ⅱ			3. 増加する日本語学習者（海外編） 日本語教育実施国10か国の状況						
第3回	国際理解Ⅰ			【小テスト① 日本語教育概論】 1. 日本社会の成立と周辺各国との交流 2. 文化の種類						
第4回	国際理解Ⅱ			3. 多文化社会と教育						
第5回	国際理解Ⅲ			4. 「日本事情」では何を教えるか						
第6回	言語と社会Ⅰ			【小テスト② 国際理解】 1. 言語変異 2. 言語行動						
第7回	言語と社会Ⅱ			3. 言語接触 4. 言語変化 5. 言語計画						
第8回	言語と心理Ⅰ			【小テスト③：言語と社会】1. 異文化接触と心理 2. 状況的学習論						
第9回	言語と心理Ⅱ			3. 認知心理学と学習 4. 学習ストラテジー 5. 学習者タイプ						
第10回	言語学概論Ⅰ			【小テスト④ 言語と心理】1. 一般言語学 2. 形態論 3. 統語論						
第11回	言語学概論Ⅱ			4. 意味論 5. 語用論						
第12回	世界の言語Ⅰ			【小テスト⑤ 言語学概論】 1. 起源別分類 2. 言語類型論						
第13回	世界の言語Ⅱ			3. 対照言語学（統語・テンス/アスペクト・語彙/表現）						
第14回	応用言語学Ⅰ			【小テスト⑥ 世界の言語】1. 第二言語習得における習慣形成と生得論 2. 言語能力について考え方の変遷						
第15回	応用言語学Ⅱ			3. モニターモデルと第二言語習得理論 4. バイリンガリズム						
評価方法及び評価基準	<p>時間にして15分程度の小テスト①～⑦の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑦：応用言語学】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	小テストを行うため、復習を要する。									
教材教科書参考書	プリントを用意する。									
留意点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習P (日本語教育概論B)		科目ナンバリング	L-GELS9-15.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50041		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観しつつ、本学で履修する専門分野の全体像を把握する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。 日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	語彙・意味		1. 語彙論 2. 語種 3. 待遇語 4. 語構成 5. 擬音語・擬態語 6. 意味論							
第2回	文字・表記		1. 日本語の表記法 2. 漢字・平仮名・カタカナ・ローマ字							
第3回	音声Ⅰ		【小テスト⑧ 語彙意味・文字表記】1. 音声概論 IPA国際音声記号による五十音図 2. 単音一子音一							
第4回	音声Ⅱ		3. 調音点 4. 調音法							
第5回	音声Ⅲ		5. 単音一母音一 6. 音素と異音							
第6回	音声Ⅳ		7. 音韻レベル 8. アクセント・イントネーション・プロミネンス							
第7回	文法（品詞）Ⅰ		【小テスト⑨ 音声】1. 品詞論と構文論 2. 名詞 3. 動詞							
第8回	文法（品詞）Ⅱ		3. 動詞							
第9回	文法（品詞）Ⅲ		4. 形容詞 5. 副詞 6. 連体詞 7. 接続詞 8. 感動詞							
第10回	文法（品詞）Ⅳ		9. 助詞							
第11回	文法（構文）Ⅰ		【小テスト⑩ 品詞】1. 文の種類							
第12回	文法（構文）Ⅱ		2. ヴォイス（態）3. アスペクト（相）							
第13回	文法（構文）Ⅲ		4. テンス（時制）5. ムード（モダリティ・法・陳述）6. 授受表現							
第14回	文法（構文）Ⅳ		7. 連体修飾節 8. 従属節							
第15回	文法（構文）Ⅴ		前回の続き一条件形 9. 格助詞							
評価方法及び評価基準	<p>時間にして15分程度の小テスト⑧～⑩の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑩ 構文】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	小テストを行うため、復習を要する。									
教材教科書参考書	プリントを用意する。									
留意点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習Q		科目ナンバリング	L-GELS9-16.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	G50042		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	(コンソーシアム)			授業 形態	演習	オムニバス	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、大学コンソーシアム学都ひろさきの「共通授業」として開講されるもので、弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合う。予定されている大きなテーマは次の3つ。 ①学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～、②地域の健康課題と食生活、③地域の情報発信について 授業では、1日1課題（テーマ）について担当教員、弘前市職員、民間企業社員から、地域の様々な課題についてオムニバス形式で授業を実施し、その解決策についてのグループディスカッション、グループワーク等を行い発表する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	① 地域の状況を具体的に理解できるようになる ② 地域の課題解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになる ③ 各テーマに対して、自分の考えを述べるようになる									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～①			弘前市の児童生徒の健康診断と健康課題について						
第2回	学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～②			弘前市の小・中学校の健康教育の取組について						
第3回	学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～③			児童生徒の健康診断を体験してみよう						
第4回	学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～④			学校と地域社会が連携した健康づくりについてのグループワーク・発表						
第5回	学校保健を学ぶ～学校保健における健康診断と保健教育～⑤			全体討議・講評						
第6回	地域の健康課題と食生活①			ライフステージの健康と栄養						
第7回	地域の健康課題と食生活②			自分や家族の食と健康を振り返る						
第8回	地域の健康課題と食生活③			弘前市の健康づくりの実態と課題						
第9回	地域の健康課題と食生活④			地域の健康づくりのためにできることを考える						
第10回	地域の健康課題と食生活⑤			発表と意見交換、講評						
第11回	地域の情報発信について①			地域の情報発信						
第12回	地域の情報発信について②			様々な情報発信の形						
第13回	地域の情報発信について③			弘前市の事例						
第14回	地域の情報発信について④			地域・あるいは大学などの情報発信について考える・情報発信のための資料等を作成する活動						
第15回	地域の情報発信について⑤			発表・検討						
評価 方法 及び 評価 基準	期末評価（最終レポート）：100%									
課題 等	各日に課せられる課題と最終レポート									
事前事後 学修	各テーマに関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。必要に応じて資料などを配布する。									
留意 点	普段から「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことが行われているのか、関心を持つようにすること。授業内容が変更になる可能性があるため変更があった場合は適宜連絡を行う。									